

第2章 一般概況

2-1 地勢

群馬県は、日本列島のほぼ中央に位置し、県西・県北の県境には山々が連なり、南東部には関東平野が開ける内陸県です。県土の約3分の2が丘陵山岳地帯で、面積は約6,362 km²、その大きさは全国で21番目、関東地方では栃木県につぐ2番目となっています。

山々はいくつかの山地・山脈に分けられ、北東部には足尾山地、南部には関東山地、北西部には三国山脈があります。これらの山地の間には大型火山があり、主なものは、県央の赤城山、榛名山、西部の浅間山、草津白根山、北部の武尊山などがあります。

2,000m級の山岳、尾瀬などの湿原、赤城大沼、榛名湖などの多くの湖沼、吾妻峡をはじめとする渓谷、雄大な利根の流れなど、群馬県は変化に富む美しい大自然に恵まれており、3,000種を超える多様な植物が生息しています。

また、群馬県・栃木県・茨城県・埼玉県・千葉県・東京都の1都5県にわたり、流域面積約16,840km²で日本一を誇る利根川の水源は群馬県にあり、首都圏の水がめともいわれています(図2-1)。

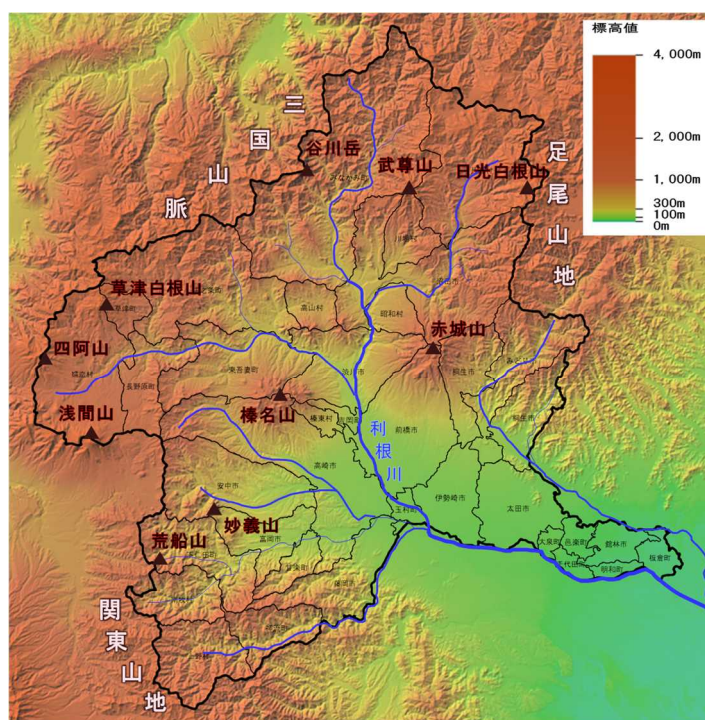


図2-1 群馬県の地勢図

【出典】 国土地理院の色別標高図を加工して作成

2-2 人口

平成27年国勢調査による平成27年10月1日現在の群馬県の人口は、197万3,115人となっています。昭和40年代の高度経済成長期から増加し続けましたが、平成16年（2004年）7月の203万5千人をピークに以降減少傾向が続いています（図2-2）。

若年層の就職・進学による県外への転出、少子高齢化の進行が人口減少の主な理由です。

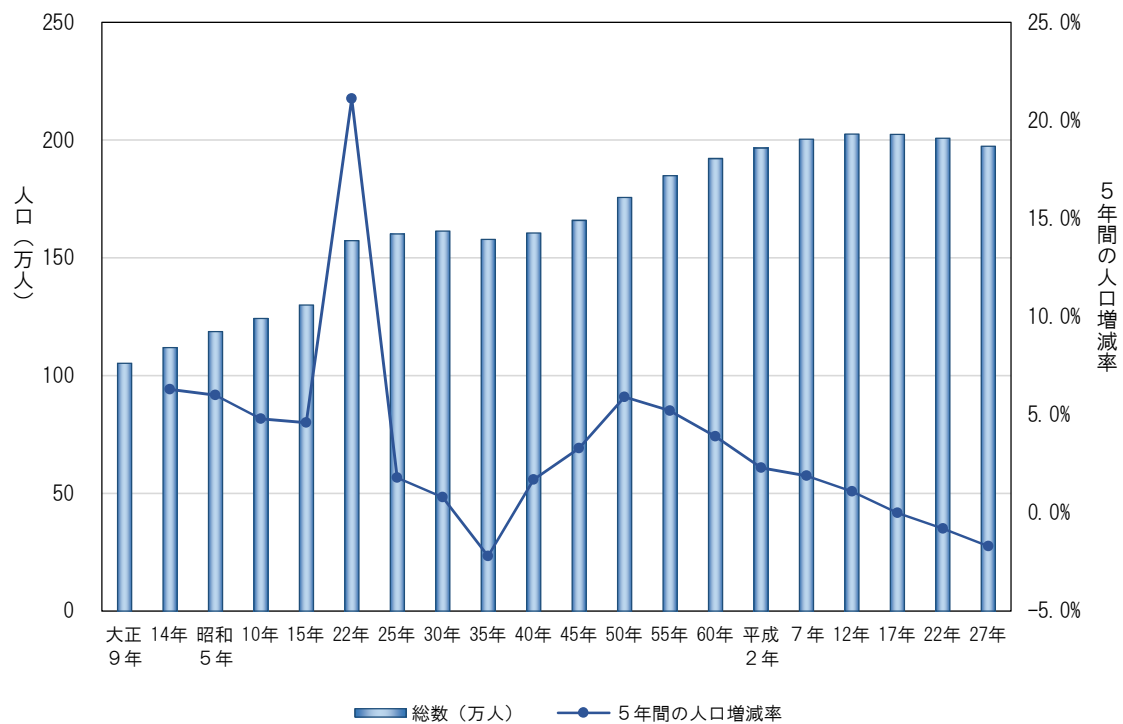


図2-2 群馬県の人口及び人口増減率の推移

【出典】 総務省「国勢調査」、群馬県「群馬県の人口と世帯」

2-3 産業

群馬県における平成27年度の県内総生産は、名目値で8兆6669億円となり、対前年度比3.7%増と3年連続で増加しています（図2-3）。平成27年度の県内総生産を産業別にみると、第1次産業が1.3%、第2次産業が44.2%、第3次産業が54.5%となっています（図2-4）。

国勢調査による就業者数は、平成27年10月1日現在966,060人で前回調査（平成22年10月1日）に比べ、657人、率にして0.1%の増加となっています。これを産業3部門別に見ると、第1次産業は5.0%、第2次産業は30.8%、第3次産業は61.2%となっており、第3次産業の比率が年々増加しています（図2-5）。

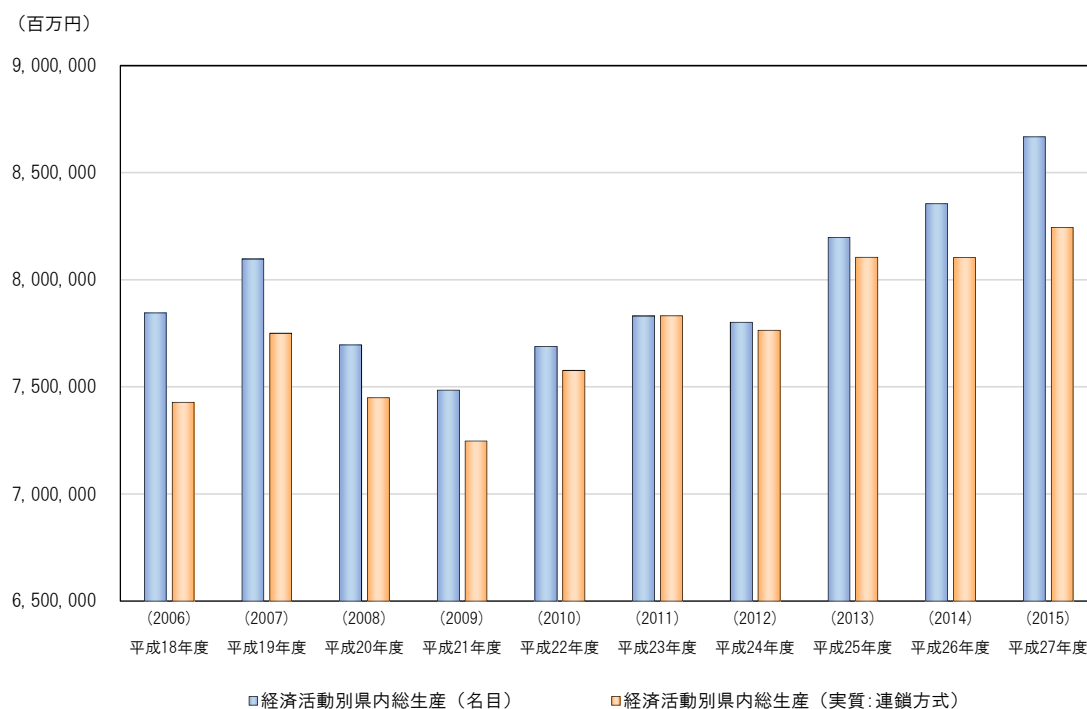


図2-3 県内総生産の推移

【出典】群馬県「平成28年度県民経済計算」

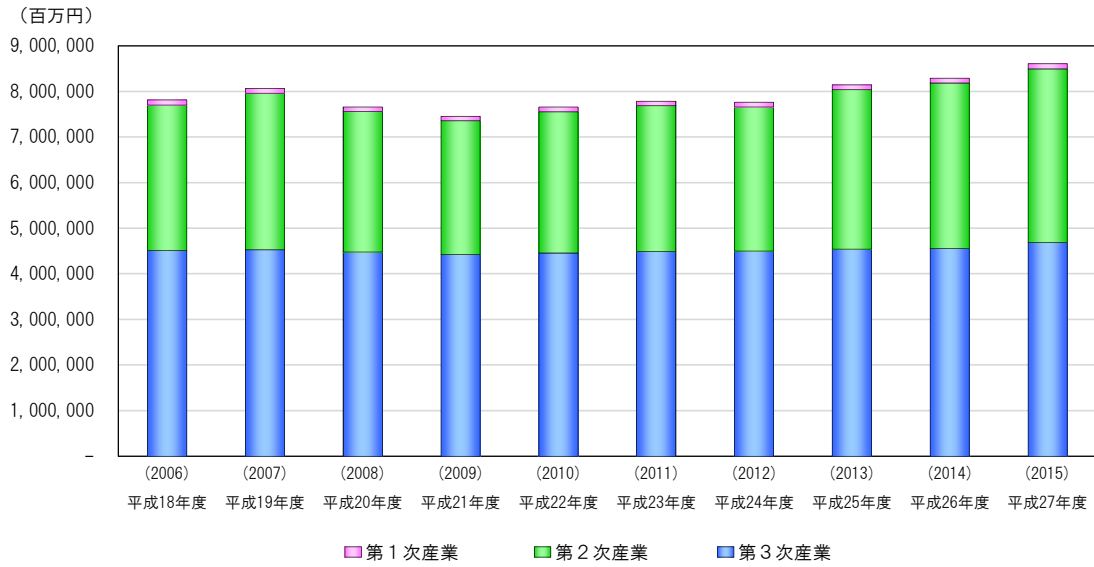


図2-4 県内総生産（名目）の産業別構成比の推移

【出典】群馬県「平成28年度県民経済計算」

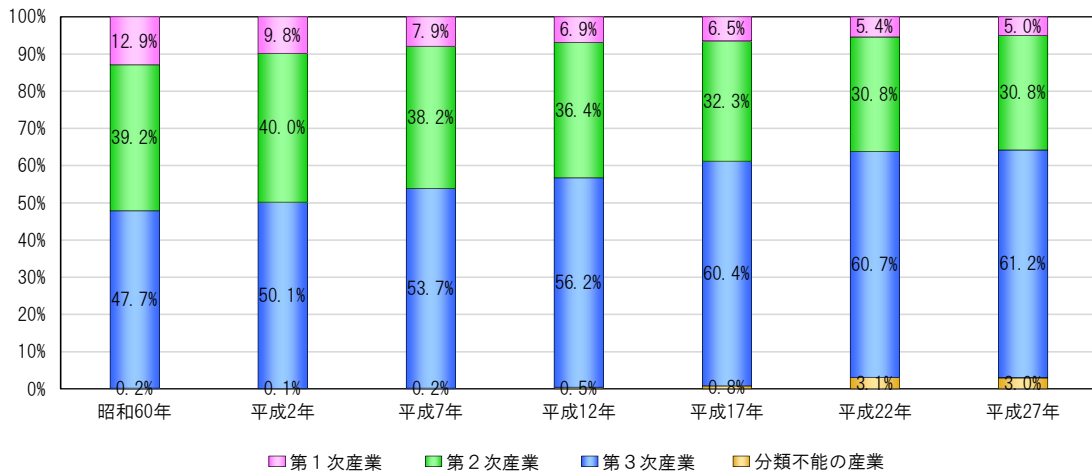


図2-5 産業3部門別就業者割合の推移

【出典】総務省「国勢調査」、群馬県「就業状態等基本集計結果」

「第1次産業」…「農業・林業」及び「漁業」

「第2次産業」…「鉱業・採石業・砂利採取業」、「建設業」及び「製造業」

「第3次産業」…「電気・ガス・熱供給・水道業」、「情報通信業」、「運輸業・郵便業」、「卸売業・小売業」、「金融業・保険業」、「不動産業・物品賃貸業」、「学術研究・専門・技術サービス業」、「宿泊業・飲食サービス業」、「生活関連サービス業・娯楽業」、「教育・学習支援業」、「医療・福祉」、「複合サービス事業」、「サービス業（他に分類されないもの）」及び「公務（他に分類されるものを除く）」

2-4 水資源

(1) 平均降水量

群馬県における年間降水量は、概ね1,200mm～1,600mmです。過去30年間の平均降水量は1,393mmであり、日本の年平均降水量が1,718mmであることから、日本の平均を下回る降水量となっています（図2-6）。

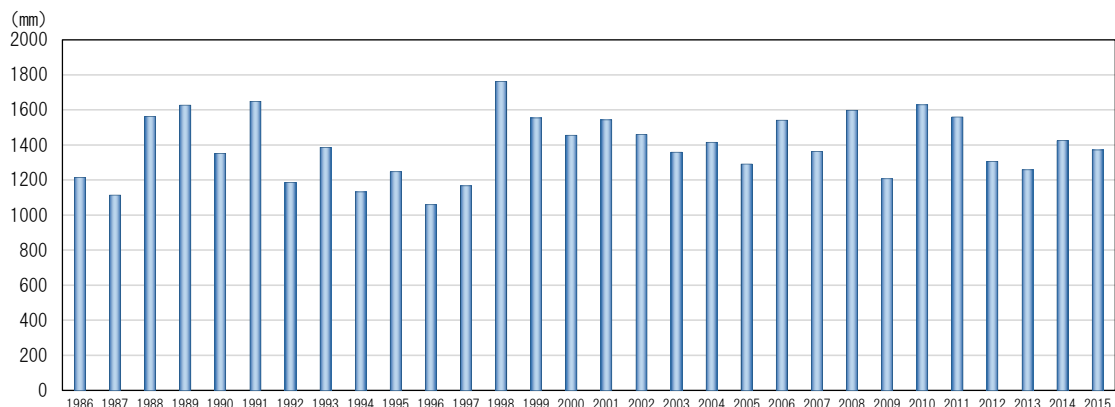


図2-6 群馬県の年間降水量

【出典】 気象庁「過去の気象データ」、国土交通省「平成30年版 日本の水資源の現況」
 ※ 群馬県内の17観測地点の平均値。資料不足値は除いて算出

(2) 水資源賦存量

群馬県における一人当たりの水資源賦存量は、過去30年間の平均値が3,036m³/年となっており、全国平均値の3,332m³/年をやや下回っていますが、渇水年においては全国平均値とほぼ同程度となっています（表2-1、表2-2）。

表2-1 30年平均年における年降水量及び水資源賦存量比較

	人口 (千人)	面積 (km ²)	平均年				
			降水量 (mm/年)	降水総量 (億m ³)	一人当たり 降水量 (m ³ /人・年)	水資源 賦存量 (億m ³)	一人当たり 水資源賦存量 (m ³ /人・年)
群馬県	1,973	6,362	1,393	89	4,492	60	3,036
全国	127,095	377,974	1,718	6,494	5,109	4,235	3,332

表2-2 渇水年における年降水量及び水資源賦存量比較

	人口 (千人)	面積 (km ²)	渇水年				
			降水量 (mm/年)	降水総量 (億m ³)	一人当たり 降水量 (m ³ /人・年)	水資源 賦存量 (億m ³)	一人当たり 水資源賦存量 (m ³ /人・年)
群馬県	1,973	6,362	1,132	72	3,650	43	2,195
全国	127,095	377,974	1,369	5,174	4,071	2,916	2,294

※ 平均年は1986年～2015年（30年間）の平均値

渇水年は1986年～2015年（30年間）において降水量が少ない方から数えて3番目の年（群馬県：1994年）の値

降水量は群馬県内17観測地点の平均値

【出典】 気象庁「過去の気象データ」、国土交通省「平成30年版日本の水資源の現況」

(3) 観測地点別年間降水量の平均値

群馬県の地点別の年間降水量は、県北部で1,100mm～2,200mm、県南部で1,000mm～1,400mmとなっており、県南部に比べ県北部の方が地域間の差が大きくなっています（表2-3、図2-7）。

表2-3 観測地点別年間降水量の平均値

観測地点	1986年から2015年までの平均 (30年間の平均)
藤原	1,804.2mm
みなかみ	1,747.4mm
片品	1,210.7mm
沼田	1,124.6mm
草津	1,727.4mm
中之条	1,294.5mm
黒保根	1,463.9mm
榛名山	2,129.9mm
田代	1,491.5mm
桐生	1,275.4mm
前橋	1,014.0mm
上里見	1,375.8mm
伊勢崎	1,166.0mm
西野牧	1,279.8mm
藤岡	1,151.5mm
館林	1,210.1mm
神流	1,246.7mm

【出典】 気象庁「過去の気象データ」
 ※ 群馬県内の17観測地点の平均値。資料不足値は除いて算出



図2-7 降水量観測地点図

(4) 群馬県の河川

群馬県の河川は、利根川水系が県土の99%を形成しており、このほかに県西北部の野反湖を源流とする信濃川水系や尾瀬を源流とする阿賀野川水系があります。

利根川は、県北部にある大水上山の雪渓がその源で、赤谷川、片品川、吾妻川、烏川、渡良瀬川等の支流を集めて関東平野を流れ、千葉県銚子市で太平洋に注いでいます。

県北西部の山岳地帯では、勾配1/50以上の急流河川が多く、東部の低地地帯では、堤防が高くポンプで水を川に入れなくてはならない河川や、勾配1/1,000以下の緩流河川があるなど、県内の河川はそれぞれ個性豊かなものになっています(図2-8、表2-4)。



図2-8 主要河川図

表2-4 群馬県内一級河川の河川数及び総延長

区分	水系名	河川		湖沼		合計	
		本数	総延長(m)	本数	周囲(m)	本数	総延長(m)
県管理	利根川	423	2,663,520	5	19,637	428	2,683,157
	信濃川	2	6,792			2	6,792
	阿賀野川	3	15,928	1	6,218	4	22,146
県管理計		428	2,686,240	6	25,855	434	2,712,095
直轄管理	利根川	26	251,190			26	251,190
河川数・総延長		428	2,937,430	6	25,855	434	2,963,285

(平成31年4月1日現在)

※ 直轄管理河川には直轄ダム管理分を含む

【出典】 群馬県県土整備部河川課資料

※ 直轄管理河川については、全て県管理河川と同一河川のため、総河川数からは除かれる

※ H19.4一級河川片品川の1区間(8.0km)について、直轄管理から県管理に編入された

(5) 水道水源ダム

群馬県には、水道水の水源として活用しているダムが10基あります。水道水源ダム10基目のハッ場ダムは、利根川水系の代表的な支川の一つ、吾妻川の中流部に建設が進められている多目的ダムで、令和2年3月の完成予定となっています（表2-5）。

表2-5 群馬県内の水道水源ダム

ダム名	河川名	目的	貯水施設の諸元			開発水量 (m ³ /S)
			堤高 (m)	堤頂長 (m)	有効貯水量 (万m ³)	
ハッ場ダム	吾妻川	FNPWI	116.0	291.0	9,000	21.389
矢木沢ダム	利根川	FNPWA	131.0	352.0	17,580	6.918
下久保ダム	神流川	FNPWI	129.0	605.0	12,000	14.9
草木ダム	渡良瀬川	FNPWIA	140.0	405.0	5,050	7.04
奈良俣ダム	檜俣川	FNPWIA	158.0	520.0	8,500	8.045
桐生川ダム	桐生川	FNPW	60.5	264.0	1,130	0.4
道平川ダム	道平川	FNW	70.0	300.0	490	0.4
塩沢ダム	塩沢川	FNW	38.0	157.0	28	0.0116
四万川ダム	四万川	FNPW	89.5	330.0	860	0.53
大仁田ダム	大仁田川	FNW	54.4	163.0	28	0.0086

※目的／ F：洪水調節 N：既得取水の安定化、河川環境の保全等 P：発電 W：上水道用水 I：工業用水 A：特定かんがい

【出典】 国土交通省関東地方整備局ハッ場ダム工事事務所HP「ハッ場ダムの概要」
 国土交通省関東地方整備局・独立行政法人水資源機構「H28夏 利根川水系の湧水状況のとりまとめ」
 国土交通省関東地方整備局利根川ダム統合管理事務所HP「近年の湧水の状況」
 群馬県地域政策課土地・水対策室「国土交通省ダム一覧・水資源機構ダム一覧」
 群馬県河川課「ぐんまのダム」